

宇管工

3年ぶりに水廻り研修復活

学校業務職員に技術を伝授

宇都宮市管工事業協同組合（中村勝理事長）は25日、組合会館で3年ぶり8回目の「市学校業務職員機動班水廻り研修会」を開催した。機動班の日常業務に不可欠な水廻りに関する知識や簡易・応急修理の技術を伝授し、組合の社会的責任を果たすのが目的。講義では「学校施設の設備」、実技では「蛇口や便器の修理」を指導した。

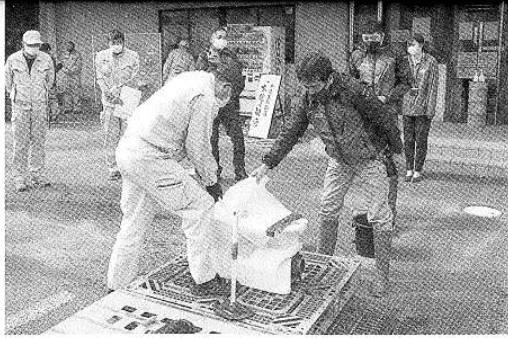


中村理事長

中村理事長は「設備業を営む我々は、地域や宇都宮のまちづくりに貢献するのが使命。水廻りの故障で困った際の知識と技能を身につけてほしい。不明な点は「講義、実技とも充実した

質問に答えるので、業務が円滑に運ぶよう習得した能力を持ち場の学校で生かしてほしい」とあいさつ。

黒川平教育技術委員長は「講義、実技とも充実した



実技に励む参加者ら（上）、講義では給排水設備の仕組みを学んだ

内容となるよう工夫した。指導に当たる青年部は現場に出ている精鋭部隊。ちょっとした作業の差が出来栄えを左右する。自分に合った修繕方法を見つけ、経験知を現場で発揮してほしい」と機動班を激励した。

渡邊幸美市教委学校管理課施設維持グループ係長は「学校施設は給排水設備が多く、経年劣化で水漏れや不具合が多発。初動の応急措置が適切であれば、その後の本格修繕が軽微で済む。なるべく多くの技術を学ばせてほしい」と謝意を寄せた。

機動班は一条、陽北、陽南、宮の原、清原、横川、城山、晃陽、雀宮、鬼怒、古里、田原の各中学校を担当する12人が参加。組合は教育技術委員会と青年部会の15人が指導。講義は大須賀勇貴氏、実技は黒崎文博氏を中心となって説明した。

研修内容は給排水設備の概要、経年劣化、洋和風便器、ロータンの仕組み、便器の詰まりを取る、大小便器のフラッシュバルブ、水栓や手洗い器排水の直し方。給水方式は水道直結、高架水槽、加圧給水の3方式があり、震度5強の地震で緊急遮断弁が作動する。汚水管と雑排水管があり、管内部への尿石や油脂の蓄積が詰まりの原因になる。トイレタンクの水漏れはボールタップを交換し、便器の詰まりはラバーカップで簡単に解消できる。水栓や手洗い器の水漏れはゴムパッキングやジョイント部の接続不良が主因と解説。

屋外での実技は機動班が6人ずつのグループに分かれ、蛇口修繕と便器排水の詰まり修理を交互に体験。実際に配管を通水できるようにセットした特設の水道施設と洋便器を並べ、技術委員会と青年部会が懇切丁寧に修理方法を伝えた。コツをつかめば容易に回復した。